

ニホンジカは2週間で忘れる説は本当か ～職員実行による有害鳥獣捕獲の取組から～

関東森林管理局 利根沼田森林管理署 森林整備官 ○新井 健司
森林技術普及専門官 ○中村 聖子
森林技術指導官 須藤 洋一

1 課題を取り上げた背景

群馬県での野生鳥獣による森林被害（民有林）は令和2年度で約2億3千万円となっており、うちニホンジカの割合が58.4%を占めています。これまで当署の造林地も被害を受けており、署としても対策の必要性を感じ、平成28年度からくりわなを使用した職員実行によるシカ捕獲を毎年春と秋の年2回実施してきました。併せてセンサーカメラによるモニタリングも行ってきたので、その結果について報告します。

2 取組の経過

当署では捕獲を始めるにあたり、昭和村及び地元猟友会への説明、協議を行い、事業について理解を得たうえで実施しました。猟友会の皆様にはわなの設置や見回りについて協力してもらっています（写真1）。

経験がない職員も安全に作業できるように、電気止めさし器と保定具を工夫し自作して使用しています。

また、誘引捕獲であれば獣道以外でも設置可能なうえ捕獲効率が高いとの情報から、令和3年度からは通常のわな設置に加えて、誘引捕獲も導入しました。捕獲に併せてシカの動向を把握するため、平成30年度から14台のセンサーカメラによるモニタリング



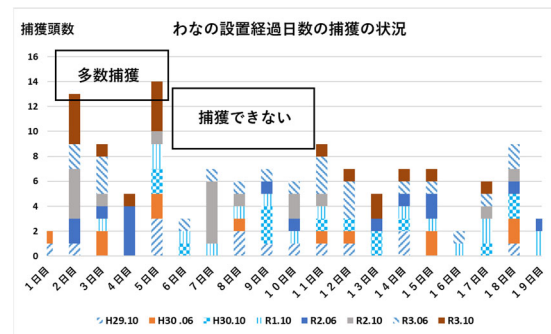
（写真1）：猟友会昭和支部の皆様と打合せも実施しています。

3 実行結果

令和3年度は誘引捕獲を取り入れたことにより、これまでを上回る39頭を捕獲でき、誘引捕獲の捕獲効率は誘引なしの捕獲と比較したところ、2.3倍も高い結果となりました。しかし、過去の捕獲状況を検証すると、捕獲が始まって第2週目に捕獲できない傾向が確認できました（図1）。シカは危険を察知しても2週間すれば忘れて戻ってくる

（図1：捕獲初日から終了日までの捕獲状況）

という説があるそうですが本当なのでしょうか。センサーカメラで出現頭数を比べてみました。捕獲エリアから離れた場所では影響はありませんでしたが、捕獲エリアでは捕獲が始まるとシカは近寄りなくなり、終了するとまた戻ってきました。



4 考察

令和3年度に誘引捕獲を取り入れたことで捕獲効率が上がり、短期間で多く捕獲できたことから、令和4年度春は全体のわな数を減らして誘引捕獲のわなの数を増やしたところ、これまでの2倍の頭数を捕獲することができました。①捕獲効率の高い誘引捕獲のわなを増やすこと、②短期間で設置箇所を見直すこと、により捕獲精度を向上させるとともに、わなの総設置数を減らすことで見回り業務も軽減できることが分かりました。

また、シカは2週間で忘れるかについて、捕獲を開始すると出現頭数が低減し、終了すると戻ってくることも分かりました。このようにシカは警戒心が強いいため、スレ個体をつくらないように、今後もより確実性や効率の高い捕獲事業を目指していきます。